

第1回6月 名大本番レベル模試 (2018年6月3日実施)

採点基準 英語

*この採点基準では、特に部分点・別解の判断を要する問題のみ取り上げています。

英語 配点表			
大問	配点合計	小問	配点
I	60	1	3×4=12
		2	12
		3	12
		4	12
		5	12
II	60	1	12
		2	12
		3	6
		4	12
		5	12
		6	6
III	45	1	8
		2	5
		3	5
		4	3×4=12
		5	15
IV	35		35

大問 I, II 設問形式別採点原則

〔和訳形式〕

- (1) 基本的にはすべての部分的誤りと語句の無視は、個別に指定が無い限り $\boxed{-2}$ 。
- (2) 個別に指定許容された箇所以外のカタカナ訳は不可で 一語につき $\boxed{-2}$ とする。
- (3) 和訳という指示に従わず英単語をそのまま書いているものは、一語につき $\boxed{-2}$ とする。
- (4) 日本語の誤字は、別の意味にとられてしまうケースは $\boxed{-1}$ で、他は許容。
- (5) 各採点区分内で指定の点数を超えた時点で減点を行わない。
- (6) 区分された単位で意味が成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を0点。
- (7) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

〔内容説明形式〕

- (1) 基本的に下記の(3)(5)以外のすべての誤りは、個別に指定が無い限り $\boxed{-2}$
- (2) 語句の意味を誤ったものは個別に指定が無い限り $\boxed{-2}$
- (3) 採点枠内が部分的減点が難しいレベルで誤っているものは、配分点をすべて引く。
- (4) 個別に指定されたものと全訳で使われたものを除いてはカタカナ訳は不可で $\boxed{-2}$ 。
- (5) 日本語の誤字等は、同音の別の意味にとられてしまうケースは $\boxed{-1}$ で、他は不問
- (6) 各配点区分において、区分点を越えた減点を行わない。
- (7) 二重の減点を避ける必要がある場合、必須要素と無関係の部分からとった不要要素は無視し、必須要素の有無と正誤のみで採点。
- (8) 解答文の結びの巧拙は、減点対象としない。
- (9) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

大問 I

2 (12点)

【解答例】

送信機を改良するのは高くつき、また、番組のスポンサー企業の製品を異星人は購入できないので、電波送信による異星人との接触は経済的に成立しない。

【基準と配分】

要素① Improving a transmitter is expensive の該当部 (4点)

必須要素(1)(2)(3)それぞれ不足か誤りは (-2)

(1) improving ⇒ 「改良すること」「改善すること」「強化すること」「高めること」など

*名詞化して「～の強化」などとしても可。

(2) transmitter ⇒ 「(電波)送信機」かその類語(「通信機」「電信機」など)

*カタカナ(トランズ[ス]ミッター)は許容

(3) expensive ⇒ 「高くつく」「費用がかかる」「高価だ」

要素② creatures on other stars are not able to buy the products in the TV commercials made by the company that sponsors your “program.” の該当部(6点)

必須要素(1)(2)(3)それぞれ不足か誤りは(−2)

(1)「異星人」またはその類語(「宇宙人」「他の(惑)星の生物」など)

(2)「番組のスポンサー企業」またはその類語(「資金提供企業」「後援してくれる会社」など)。「番組」を「企画」「プロジェクト」などとしたものも可。

(3)「製品を買ってくれることができない」またはその言い換え(「現実には製品を買えない」「製品を買えるところに住んでいない」など)

要素③ 結び(2点)

必須要素

(1)「電波送信による異星人との接触は経済(学)的に成立しない」またはその言い換え(「この計画は資金が行き詰まる」「異星人との(電波での)接触は元がとれない」など)

*実線を付した economics に関する語が否定的に述べられていないと(−2)

**点線を付した主部がない(または原文と無関係)な場合(−2)

3 (12点)

【解答例】

テレビやラジオの信号は 2, 3 光年離れた所では探知不可能なまでに弱まっていた可能性が高いから。

【基準と配分】

必須要素

(1)「テレビやラジオの信号」またはその類似表現(「テレビやラジオの電波」「テレビとラジオのシグナル」など)。(4点)

*「ラジオ」はなくても可。「テレビ」「信号(シグナル)」の欠如は各(−2)

**「そのシグナル」は説明不足で(−2)

***「キャッチフレーズ」を使った場合、「テレビでのキャッチフレーズ」「キャッチフレーズを含む信号(電波)」といった説明があれば正解と認める。ない場合は(−2)。

(2)「2,3 光年先へ進めば」その類似表現(「数光年先では」「何光年かかなたでは」など)。(4点)

* 「(はるか) かなた」「(ずっと) 遠く」など「光年」を使っていないものは (-1)

(3) 「探知不可能なまでに弱まったことだろう」またはその類似表現(「弱まって捉えられなくなっただろう」「弱まって最後は消えてしまっただろう」など) (4点)

* fade に対応する「弱まる」系の表現の欠如 (-2)

** undetectability に対する「探知不可能」系の表現の欠如 (-2)

4 (12点)

【解答例】

もし太陽系外惑星がたまたまビームに捉えられ、幸運なことに異星人がその時に受信アンテナを空の我々が存在する一角に向けていたとしても、彼らが拾うのは電波エネルギーの短い波にすぎないであろうし、次には静寂が訪れることだろう。

【要素と基準】

要素① If an exoplanet happened to be caught in the beam, (4点)

(1) exoplanet は「系外惑星」「太陽系の外の惑星」「太陽以外の(恒星)の惑星」など可。「遠くの惑星」「よその惑星」は (-2)

(2) happened to be caught の happened to do の誤訳は (-2)

要素② and they were lucky enough to be pointing a receiving antenna at our corner of the sky at the time (4点)

(1) If 節の一部として理解できていない場合 (-3)。

(2) receiving antenna を「受信中のアンテナ」としたものは (-2)。

(3) at our corner of sky の our (「我々」「地球」), corner (「一角」「方角」), sky (「宇宙」「空」「宇宙空間」) の欠如はそれぞれ (-1)。

(4) 結びに even if の語感を出す「～でも」「～ても」がない場合 (-2)。

要素③ all they would pick up would be a brief pulse of radio energy, then silence. (4点)

(1) all の「すぎない」「だけである」の語感が全く表せていないと (-2)

(2) pulse はカタカナ訳を許容。

(3) then silence の then は「その後」「最終的に」「結局」のどれかの語感を出せていたら可。日本語として成り立たないもの(「次に静寂を受信する」など)は (-2)

5 (12点)

【解答例】

たぶん水がどのように循環していたのかについての様子を知ることができ、酸素が豊富な地球の気は、何か不思議なことが行われていたことをうかがわせることだろう。

要素① You could probably find out what water cycle looked like (6点)

- (1) You を「あなた(達)」と訳出したものは減点しない。
- (2) could (仮定法過去) を「できた」と訳したら(-2)。
- (3) what ~ looked like の直訳(水の循環がどう見えたか)は許容。

要素② and our oxygen-rich atmosphere would give you a hint that something weird was going on (6点)

酸素が豊富な地球の大[空]気は、何か不思議なことが行われていたことをうかがわせることだろう。

- (1) 同格の that の明らかな誤訳(関係代名詞と誤解した訳など)は(-2)。
- (2) hint のカタカナ訳は許容。
- (5) weird は「特殊な」「見慣れない」「あり得ない」などは認めるが、「生命の印となる」「科学的な」「生命に関する」などは(-2)。

大問II

1 (12点)

【減点の原則】

- (1) スペルの誤り・記号の誤り(欠如) ⇒ -1点
- (2) 単語熟語の誤り ⇒ -2点
- ※ 類語だが明確に不適切な場合は -1点
- (3) 冠詞と名詞の数の誤り ⇒ -1点
- (4) 文法的誤り ⇒ -2点
- (5) 語句の不足・訳し漏れ ⇒ -2点
- (5) 各採点区分内で指定の点数を超えた時点で減点を行わない。
- (6) 意味のまとまりを作る語句が、1語の訂正では直らないような誤り ⇒ -3点
- (7) 区分された文、句、節単位で英語として全く成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を0点とする。

【解答例】

[例-a] you are informed by the airline agent that the flights to London are canceled due to a weather problem

[例-b] the airline agent informs you that the flights to London are canceled because of bad weather

【基準と配分】

要素① あなたは航空代理店に～という旨を知らされる（6点）

- (1) 時制は現在形のみ可。他の時制は（－2）。
- (2) 航空代理店を **airport agent [agency]** , **sky agent [agency]**としたものは（－1）。
- (3) **that** の省略は許容。

要素② ロンドン行きのフライトが天候の問題のために欠航する

- (1) 「フライト」は **the flights** , **the flight** , **flights** , **all the flights** など。 **a flight** は（－1）。
- (2) 「欠航する」に過去時制を用いたものは（－2）。
- (3) 「天候の問題」の「天候」に **climate** を使ったものは（－2）。

2 （12点）

【解答例】

万が一水不足が起こると、水代を払う以外に選択肢はないので、自分の子供のためよりも、かわいいゾウに多く金を費やさねばならなくなるだろう。

【要素と基準】

要素① **Should there be a water shortage**（4点）

- (1) 「万が一」はなくても可。また「仮に」を入れても可。
- (2) 「～の場合」でも可。
- (3) **a water shortage** は「干ばつ」も認める。

要素② **you would have to spend more for your lovely elephant than for your children**（4点）

- (1) **spend more** が「金銭」について述べていると全く分からないものは（－2）。
- (2) **lovely** を「愛情深い」「情け深い」としたものは（－2）。
- (3) **would**（だろう）の欠如は（－1）。
- (4) **your** は2か所いずれも訳出しなくても可。

要素③ **since you have no choice but to pay the money for water.**（4点）

- (1) **since** の誤訳（～以来）は（－2）
- (2) **have no choice but to do** を定型表現だと知らずに誤訳したもの（～したが選択肢はない）は、一括して（－2）。

4 （12点）

【解答例】

私が住むところに近い広大な土地をある超大型店が購入したいと望み、近隣の性格を変えてし

まうからと物議をかました。

【要素と基準】

要素① A large super-megastore wanted to acquire a huge land near (3点)

(1) large super-megastore の super が全く訳に反映されていない(「大型店舗」など)ものは(−1)。

要素② near where I live (3点)

(1) near 以下が land への修飾だと分かっているものは(−2)。

要素③ causing uproar (3点)

(1) and caused uproar の意味の分詞構文だと分かっているものは(−2)。

(2) cause uproar は「賛否両論を招いた」「世論を2分した」などの意識も認める。

要素④ owing to the change it would bring to the character of the neighborhood (3点)

(1) 関係代名詞の省略が理解できていないものは(−2)。

5 (12点)

【解答例】

大規模店のせいで近隣から他の商店がなくなり、したがってその大規模店が倒産すれば、住民が町で買い物をする唯一の場所を失うことになるということ。

【基準と配分】

要素① 大規模店のせいで近隣から他の商店がなくなり (6点)

(1) the super-megastore の相当語句 (2点分)

⇒・「大規模店」「大型スーパーマーケット」「超巨大店舗」など可。

・「巨大」の語感が全くないもの、カタカナ訳は(−2)。

(2) drive all its competitors out の相当語句 (2点分)

⇒・「全ての競争相手を駆逐する」「商売がたきを全部追い出す」「競合店を皆つぶす」など可。

・all の意味が欠けていると(−2)。

(3) of our neighborhood の相当語句 (2点分)

⇒・our の訳出は減点対象としない

要素② したがってその大規模店が倒産すれば、住民が町で買い物をする唯一の場所を失うことになる (6点)

(1) If the company should go bankrupt の相当語句 (2点分)

⇒ the company の the を訳出せず不明確なら(−1)

⇒ should は「万が一」を入れずに訳しても可。

- (2) we would lose the only place in our town to shop at の相当語句 (4点分)
 ⇒ the only の意味が欠けていれば (-2)
 ⇒ in our town の意味が欠けていれば (-2) *our の訳出は減点対照としない
 ⇒ to shop at の意味が欠けていれば (-2)
 ⇒ would は「だろう」と訳出していなくても可。

大問III

1 (8点)

【解答例】

(“Their Chinese counterparts” means) Chinese women who have come to England to live there permanently. *permanently はなくても可。

【基準】

- (1) 単語, 文法 (冠詞, 名詞の単複も含む), 文字の大小や記号など語学的なミスは全て各 -1 とする。
 (2) 「①イングランド」「②中国人」「③移民」「④女性」の4要素が1つ欠ける毎に -2
 (3) counterparts に合わせた複数形になっていないものは -1。
 (4) 要素がそろっていれば語数の目安とずれていても可とする。

5 (15点)

【基準】

- (1) 文法, 語法, 単語 (スペルも含む), 文字の大小, punctuation のミスはすべて (-1)
 (2) 2~4語連続したコロケーション, 句, 節などで, 意味をなさない場合は, その部分を (-2) とする。
 (3) 各採点区分の中で, 途中で立ち消えた解答は未解答と同じ扱い。

【解答例】

First, we should treat them equally early in their childhood because frequent quarrels between them would badly affect their personalities. Second, we should try to find out the differences in their personalities later in their childhood because we need to help each one achieve his or her own self-realization.

【基準と配分】

一つ目 (8点) / 二つ目 (7点)

- (1) complete sentence とみなせないものは, 一回ごとに (-2)

- (2) **Because** を接続詞として使えていなければ一回ごとに (−2)
- (3) 一つ目と二つ目が内容的にほぼ同じで言い回しだけを変えものは、二つ目から (−4)。
- (4) 先頭の **First / Second** 等は必須要素としない。
- (5) 主語は **I, we** のいずれかとする。他は (−2) だが、初出時一回のみの減点。
- (6) 「生まれる予定の双子を適切に育てる」ポイントを問うという設問とはかけはなれた解答には得点を与えない。
- (7) 「母の胎内にある状態の子への注意」のみ述べたものは (−4)。
- (8) 理由の欠如は一回につき (−3) とする。

大問Ⅳ (35点)

【減点の原則】同種同一の誤りも、繰り返し減点してよい。

- (1) スペルの誤り・記号の誤り (欠如) ⇒ −1点
- (2) 単語熟語の誤り ⇒ −1点
- (3) 冠詞と名詞の数の誤り ⇒ −1点
- (4) 他の文法的誤り ⇒ −1点
- (5) グラフの読み取りミスによる事実の誤認 ⇒ −2点
- (6) “major tendencies”とはいえない内容を記述 ⇒ 必須要素の配点まるごと0点。
- (7) 意味のまとまりを作る語句が、1語の訂正では直らないような誤り ⇒ −3点
- (8) 区分された文、句、節単位で英語として全く成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を0点とする。

必須要素は以下のA B Cの3つからなる。

A 性別にかかわらず、親と同居する学生の方が、ひとり暮らしの学生より、朝食をとる頻度が高い。←抜かず頻度が低いも可 (12点)

Or 性別にかかわらず、ひとり暮らしの学生は、親と同居する学生よりも、朝食を抜く頻度が高い。←とる頻度が低いも可

* 事実認識が逆になっている場合は (−12) とする。

** 数値のみを列記している場合は以下の原則を適用。

- (1) 学生のタイプ間の違い (「○○な学生の方が、△△な学生よりも」) を明確に説明していないと、tendencies の説明としては不十分であり、(−6)
- (2) (1)を満たしていれば、数値の差 (by ~ %, ~ % more often than など)の言及は可。
- (3) 数値のミスは、一カ所につき (−2)

要素① 性別にかかわらず (2点)

- (1) whether they are male or female も許容
- (2) both male and female students も許容
- (3) 「一般的に」という表現も代用として許容

要素② ひとり暮らしの学生 (2点) *寮生活者への言及はなくても可。

- (1) 学生は単複どちらで表しても可。ただし他の箇所とかみあわないと (-1)

(例) A student who lives with his/her parents, whether they

- (2) 学生を単数で述べた際、he か she の片方でしか受けていないと、一か所につき (-1)。

要素③ 親と同居している学生 (2点)

- (1) 学生は単複どちらで表しても可。ただしここより前の他の箇所とかみあわないと、一か所につき (-1)。
- (2) 「自宅通学の学生」(the students who commute from their house など)は親との同居という重要要素を十分明確にしていないので (-1)

要素④ 朝食をとる頻度 (可能性) の高低の比較 (6点)

- (1) 「より回数が多い」(more times) を使った場合、週単位での頻度であることを明確にするために a[per] week を付すべきで、a[per] week の欠如は (-1)。
- (2) more regularly, more often, more likely など頻度や可能性で述べている場合は a[per] week はなくても可。
- (3) breakfast を可算名詞として使ったもの、the を付けたもの、ともに (-1)。
- (4) 「抜かす」にspare, jump, jump overを用いたものは (-1)。
- (5) 「頻度」や「規則正しさ」ではなく「朝食をとるのを好む」とした表現は (-2)。

B 女子学生は男子学生よりも朝食をとる頻度が高い。←抜かす頻度が低いも可。

Or 男子学生は女子学生よりも朝食を抜かす頻度が高い。←とる頻度が低いも可。

(10点)

*時制は現在または過去どちらかを許容。

要素① 女子学生 (2点)

- (1) 学生は単複どちらで表しても可。ただし単複が男女で不統一な場合は、後で出てきた方から (-1) とする。
- (2) 「学生」の欠如は、解答の他の部分から推測できるなら許容。

要素② 男子学生 (2点) → 要素①に準じる。

要素③ 朝食をとる[とらない]傾向の比較。(6点)

- (1) 「より回数が多い」(more times) を使った場合、週単位での頻度であることを明確にする

ために a[per] week を付すべき。a[per] week の欠如は (−1)。

(2) more regularly, more often, more likely など頻度や可能性で述べている場合は a[per] week は無くても可。

(3) breakfast を可算名詞として使ったもの, the を付けたもの, とともに (−1)。

(4) 「頻度」や「規則正しさ」ではなく「朝食をとるのを好む」と表現は (−2)。

□ 大学生が朝食をとる頻度を向上させる良い方法になりうるとあなたが考えること。(13点)

* 極端にふざけた解答は (−13)。

(例) 朝食を抜かしたら死刑にする。

** ユニークさを狙い, やや行き過ぎた例は許容。

(例) 学食で朝食をとったらスタンプをもらい, その数だけ学費が安くなる。

*** 複数の案を述べたものは許容。